



竹の子



校長室だより

(児童数配付)

令和5年12月7日

12月6日、7日と成田市標準学力テストが行われました。

テストで思い出すことがあります。私がまだ中学生だったときの父との会話です。

父：試験どうだった？

私：まあまあだったよ。

父：どんな問題が出た？

私：こんな問題が出て出来たよ。

(自分が得意な数学(算数)について答えました。)

父：他の教科はどんな問題だった？

私：こんな感じかな。

(覚えている問題を少しだけ答えました。)

父：他には？

私：忘れた。

父：それならあまり良い結果は望めないな。

私は、たくさんの問題をすべて覚えていられるわけないと思い、父になぜそう思うのかを尋ねました。

父：本当に真剣に取り組んでいたらしっかりと頭に残るはず。特にできなかった問題であればなおさら悔しくて残るはずである。それが残っていないということは、真剣に向き合っていない証拠だ。

確かに自分の得意であった算数・数学の問題でできなかった問題は必ず後で見直すことができるくらい覚えていました。しかし、苦手な教科に対しては諦めがあり、真剣さが足りなかったのかもしれません。

そんな父との会話を思い出すとこんなことを感じます。

何事をするにも真剣に向き合っていけば、うまくいったときも失敗したときもそれぞれの原因や要因を見出すことができます。そうすることで、反省し次の取り組みに活かしていくことができるのだと思います。

勉強にしても行事にしてもしっかりと向き合い真剣に取り組んでいくことで、失敗しても次の成果につなげられるようになるのではないかと感じています。

